

## 「世界考古学会議」全体会での加藤理事長発表原稿

平成 28 年 9 月 1 日（木） 11 : 30 ~ 13:30

同志社大学 室町キャンパス寒梅館ハーディホール

イランカラプテ。世界各国からお集まりの皆さまこんにちは。

本日は「世界考古学会議全体会」において、先住民族アイヌの立場から発表の機会を与えて頂きましたことを、大変光栄に存じ、心から感謝とお礼を申し上げます。

さて、北海道アイヌ協会が、これまで活動を続けてきた背景には、日本の近代化と称して実施された北海道の開拓政策によってアイヌ民族への急激な同化政策や人種差別、アイヌ民族の居住域を「無主の地」とし土地や資源、文化などが国内外の法的枠組みによって制限を受けた 150 年があったこと、

そして、この様な歴史には、他国の先住民族同様、少数者ならではの拭いきれない実体験からの苦悩があったからです。

その解消にはアイヌ民族の努力のみでは成し得ない側面があることを、先ずはじめに皆さまにお伝えしたいと思います。

その上で本日、皆さまにお願いしたいことは、先住民族の存在が、その国内において厳然と位置づけられるためには、関係する研究分野の学協会等が学際的な研究により、その研究成果を社会的に還元し、研究の公平公正性を保ちつつ、

あらゆる教育分野や法体系への評価や影響を与えていくという、

「倫理」や「社会」、「人権」に配慮した実践的取組と社会発信をして頂きたいということです。

特に、考古学的、人類学的な研究成果は、先住民族アイヌのアイデンティティ形成に欠かせない実証的な証しと成り得るものですし、その成果自体が人類の歴史の中で、多様で豊かな彩りとなると考えるからです。

一方、日本国内でのこれまでの考古学、自然人類学、文化人類学、歴史学、言語学などの研究は、それぞれ分野別に、さらには人文系、理学系、医学系にと分断されました。

また、その研究の関心事は、アイヌ自らが求めるものではなく、「研究する側」、「研究される側」との大きな分断もさらに加えられて、「主体」と「客体」の関係性として当然視され、固定化し続けました。

その結果、総体的に「人」としての尊厳を欠いたままアイヌ民族の人骨や副葬品などが収集され、研究し取り扱われてきた側面があり、1930年代には、国家的なプロジェクトの一環として遺骨収集が促進され、それら疑念が解けないまま未整理の状況が、今日まで続いてきたのです。

7月下旬、国や大学、関係機関等の調査協力により、アイヌ遺骨が12の大学で1,636体を、また、北海道内外13の博物館等に少なくとも73体の遺骨が保管されていることが政府から報告されましたが、その全体像や副葬品の具体的状況はいまだ未確認です。収集経緯の記録が判然とせず、頭骨と四肢骨が一体化されないもの、副葬品も遺骨との一対確認ができず、返還すること自体ままならない保管状態のものが多くあります。

さらに民間レベルの調査では、古くは1870年代から当時一線級のヨーロッパの研究者の記録などによって、72体のアイヌ頭骨が、サハリン（旧樺太）も含めた日本の地からドイツやロシアに渡っていることが確認されました。

その他、最も古い収集記録として、1865年（慶応元）江戸時代後期のイギリスとの間で外交事件となった道南地域のアイヌ人骨盗掘事件もあり、アイヌの遺骨や副葬品の収集、取扱い、法的位置づけなど、その全容は、当初から現在に至るまで未解明のままなのです。

真理の探求を名目とした一方的な科学信奉的な価値観だけが先行し、その研究成果が行き着く、社会還元への貢献が疎かになってきたと思われるのです。

その端的な証しとして、アイヌ民族は、日本において25年前に「民族」として、8年前に「先住民族」として、ようやく名目上の復活を得たばかりだからです。

先祖代々、北海道、樺太、千島などを中心にこれらの土地に居住し続けてきたにもかかわらず、公的な不認知、法的差別体制が布かれていたからこそ、研究の関心事がアイヌ民族が求めるものや、公平公正さから遠ざかってしまったのです。

日本考古学協会の設立は、第2次大戦後です。

戦前は、人類学中心に個人が多く、学問領域にまたがり研究を行っており、戦後には、領域別の学協会に細分化されると一層、「誰のための」、「何のための」、という研究目的の基本的な押さえが曖昧となり、全くアイヌ民族の自尊心に響かない、先住民族問題として捉える根本的な研究視点が欠けたものとなってきてしまいました。

このことは、アイヌ民族への認知だけではなく、日本国内の大多数を形成するグループの自称民族名が、第二次世界大戦前には国定教科書において「大和民族」とされていたものが、戦後、死語となる位、全くと言って良いほど使われなくなり、曖昧なままとなっていることから伺えます。

日本の民族的な多数派、少数派ともに国籍条項だけでなく、これらの属性や系譜に係る共通の観念設定をすることこそが肝要であり、憲法における基本的人権と国際人権法における人権の理解については、基本的に齟齬があってはなりません。

ですから、こうした研究は人権擁護や差別解消の取組に関しても社会的配慮を欠くことなく行われるべきと考えます。

ほとんどの日本国民は、明治後期、1910年に「北海道」が「樺太」や「台湾」同様「植民地」との認識の下に、国内法「外国人土地法」が制定されたことを理解しておりませんし、翌1911年、ロシア、アメリカ、イギリス、日本との間でインディアンやアリュート同様にアイヌを先住民族であるとの認識の下に、独自の狩猟権を認めた国際条約「猟虎オットセイ条約」が結ばれた歴史があることを理解しておりません。

さらに大戦後は、手の平を返したようにアイヌ民族を民族とも認めないとした公的差別が、戦後1945年（昭和20）から1991年（平成3）まで続いてきた事実についても理解しておりません。

日本国のオリンピックの初参加よりも8年早く、アイヌ民族が1904年（明治37）のセントルイスオリンピックに「人類学の日」と称した先住民族の付属イベントや競技に参加していましたが、その意味やその背景が何であるかを知って頂きたいのです。

1956年（昭和31）の現行憲法下、ILOから世界各国に照会があった98項目の質問文書「独立国における先住民に関する生活と労働について」に、我が国政府が実態とは全くかけ離れた報告により、先住民族アイヌの存在を無きものとしています。

その様なことから、北海道アイヌ協会では、「日本文化人類学会（旧日本民族学会）」や「歴史学研究会」への声明発表の要請をはじめ、「日本考古学協会」や「日本人類学会」との間では、これまでの研究のあり方、公教育や研究成果の社会還元などが適切に進められてこなかったことなどをお伝えし、両学協会代表役員との対話と合意によって、その改善や、今後の取組を進めたいと考えております。

また、同じように公教育の改善には、現在、国で審議が進められている小中学校等「学習指導要領」の改訂に伴い、同様の趣旨の要望書を文部科学省にも提出しているところです。

当協会では、国際人権システムの活用を打開策と考え、当時の首相の「単一民族国家発言」の翌年、1987年から国連の先住民作業部会に出席し、アイヌ民族の国内人権状況を継続的に報告してきました。

1992年（平成4）、国連総会会場の「国際先住民年記念式典」でアイヌ民族として当協会理事長がスピーチをした時点でも、先住民の定義が曖昧との理由で、日本国内では、アイヌは先住民とは認められないとされました。

1997年（平成9）には、アイヌ文化法が制定され、国民への理解のための事業などが推進され、一定の効果が見て取れるようになりましたが、総合的な先住民政策までには至っておりません。

2007年（平成19）「先住民の権利に関する国連宣言」採択以降、国内状況も変わり、2008年（平成20）「アイヌ民族を先住民とすることを求める国会決議」を受け、現在、内閣官房長官の諮問機関「アイヌ政策のあり方に関する有識者会議」報告書の提言に基づき、先住民政策が検討されております。

本年、7月28日に開催された「アイヌ政策推進会議」の関連会議資料にアイヌ先住民政策について、菅内閣官房長官の意向に基づき「これまでの固定観念や先入観を取り払い、アイヌに寄り添った視点で行う」との基本的な考え方が明記されました。総合的な先住民政策として法的基盤の整備に向け、根本的検討が加速するものと期待をしているところです。

閣議決定によって、2020年東京五輪・パラリンピックまでに設置されるナショナルセンターである民族共生象徴空間、国立アイヌ民族博物館、国立民族共生公園、そして尊厳ある慰霊の実現に向けた慰霊施設が真の意味をなすのです。

さらに、学協会や国内、国際的な支援が相まってこそ、先住民のアイデンティティ形成と共生社会の基盤が定められると思っております。

祖先の遺骨や副葬品が国の責任の下、関係機関が誠意を尽くし発掘時の姿にすることで、在るべき慰霊の姿となり、返還を含めた禍根の無い解決が、現実味を増すと考えます。

どうぞ「世界考古学会議全体会」として、今後の日本国内での先住民政策の取組についての国際的な後押しと、継続的なモニタリングを続けて頂き、遺跡や遺構、先祖の営みから将来の先住民の生き方や精神的、哲学的な価値観を見直し、再活性化するような支援機能を考えて頂ければ幸いです。

本日ここにお集まりの皆さま、関連する国内外の機関、組織の皆さまが、先住民族アイヌの思いの一端を理解して頂けたなら、有り難く光栄に存じます。最後に皆さまからの心からのご支援を改めてお願いして、発表を終わりたいと思います。ご静聴ありがとうございました。